

## 挾間史談会十周年記念号に寄せて

会長 二宮修二

挾間史談会が発足以来十周年を迎えたことは、会員の皆様にとって感慨深いものがあります。本当におめでとうございます。

挾間史談会は、会員の皆様の郷土を愛し、その歴史に興味をもつ研究熱心な会員の皆さんの力によって十周年を迎えることが出来ましたことを皆さんと共に喜びたいと思います。

挾間史談会の目指すところは、挾間の歴史を窓口とした挾間と由布市の歴史を研究対象とした歴史研究をすることであり、時代については、特に焦点を絞るのでなく、会員の皆さんと得意分野や興味のあるところを取り上げていく様にしています。これまでも多くの様々な研究報告がなされました。それらを纏めるような形で地域の歴史が全体として明らかになれば幸いです。

郷土史を研究することによって、郷土挾間に郷土愛を感じ故郷のよさが感じられるようになることを願っていますし、郷土が歴史の姿を残しながら近代的、文化的に充実、発展していくことを願っています。

顧みますと発足当時は、世話人となったのは、八人だけでその人たちだけが会員でした。その世話人が未来館の一番暗い一回の音楽練習室に集まって、発足を誓い合いました。この時の熱のこもった相談をしたことが始まりでした。それから、会に必要な役員・場所・会場・会費など諸事項を決定して発足しました。皆さんの研究が多くなり、研究範囲も広がってくると研究対象をどうするかという問

題が取り上げられたり、例会をどう進めるかということが検討されたりもしました。そういう流れの中で、いくつかの共通認識が出来、会は充実してきたと思っています。研究内容としては、挾間を中心にした歴史が多く研究報告され、時代的には、原始時代から現代に至るまで幅広く研究報告されました。その中でも、中世や近世の研究が多かったと思います。その他、民俗的なことがらや、民謡、地理など様々な報告がなされました。その中で、会の好ましい研究討議の仕方や報告の受け取り方が討議され、お互いの研究に厳しい質疑も出しながら相手を認め相手を理解していこうとする気持ちも出来て来ました。

研究の方向としては、地域を見つめ、身の回りの歴史を明らかにしていく地方史の研究を進めて行きたい。研究対象としては、挾間町を中心にしながらも由布市全体について取り上げること、歴史の流れ、行政的に考えても当然であると考えるようになってきました。これからも、身の回りの歴史を調べ積み重ねて行きたいと思っています。本年度は地域的バランスも考慮して、これまでレポートの少なかつた地域にも力を入れようと思いました。それで、各地の祭りについても調査していくことにし実行しています。

「挾間史談」会誌を各方面で紹介したところ、好評をいただいております。お褒めの言葉もいただいております。これは身近な人からもらった、故郷を離れた遠くに住む人達からも感謝されたり参考になると賞賛されています。

今後の課題として、会員の増加をはかっていき、より内容が充実し、史談会の「名」を高めて行きたいと思っています。また、何よりも会員が魅力を感じ、私たちの知的興味を満足させる様な活動にしたいと思っています。